

火災の予防と対応

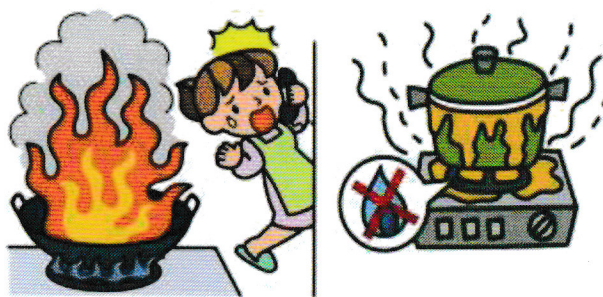
放火を除けばほとんどの火災は、ストーブやたばこ、たき火などの不注意から起こる人災です。大切な命や財産を失わないように、防火意識を持って慎重に行動しましょう。

1 火災を防ぐ7つのポイント

コンロ

揚げもののときは、
その場を絶対離れない。

- コンロのまわりに燃えやすいものを置かない。
- コンロから離れるときは必ず火を消す。
(食用油は350度程度になると自然発火する。)



油 鍋

水をかけるのは厳禁。消火器で消し、
ガスの元栓を締めるのが一番。

■消火器がある場合

- 鍋に向かって噴射し、火が消えたら
ガス栓を締める。

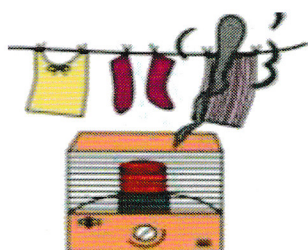
■消火器がない場合

- ①鍋に合うふたを手前から向こう側にかぶせガス栓を締める。
- ②浴槽の残り湯で濡らしたシーツやバスタオルを適度に絞り、鍋の手前からおおうようにかぶせ、ガス栓を締める。かぶせたらしばらく置いて、鍋の温度をしっかり下げる。

ストーブ

燃えやすいものを
近づけない。

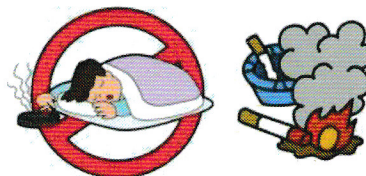
- カーテンの近くにストーブを置かない。
- ストーブで洗濯物を乾かさない。
- 給油は完全に火が消えたことを確認してから行う。
- 対震自動消火装置付きのストーブを使う。



たばこ

たばこの不始末や
寝たばこは厳禁！

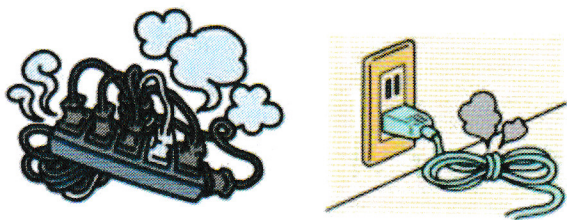
- 寝たばこ(布団の上)は絶対にしない習慣に改める。(寝たばこ火災では、布団などの燃焼で有毒ガスによる死亡者が多い)
- 火のついたたばこを残したまま、その場を離れない。
- 灰皿は大きめのものとし、吸い終わったら確実に火を消す。また、常に水を入れておく



配線

たこ足配線をやめ、
正しく使う

- コンセントの埃やゴミはこまめに掃除をする。
- コードが傷んだ電気器具はすぐに修理・交換する。
- 電気器具は取扱説明書などをよく読み、正しく使う。
- 使用後は電気器具のプラグを抜いておく。



火遊び

マッチやライターを
子どもに持たせない

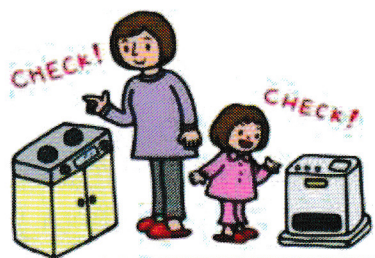
- 子どもの手が届くところにマッチやライターを置かない。
- 日ごろから子どもに火の怖さや正しいマッチの使い方を教える。
- 花火をするときは必ず大人が付き添う。



火元確認

就寝前・外出前には
必ず火元確認

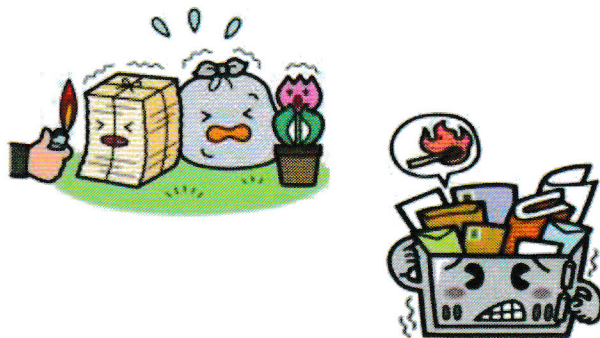
- 火元の安全を確認する時は、1ヶ所ずつ指さしながら、「ガスの元栓よし」「ストーブよし」など声を出し確認を。
- 点検すべき項目を書いたメモを壁に張り出し、それを見ながら確認するのも効果的。



放火

家の周囲に燃えやすい
ものを置かない

- ゴミは収集日の朝、指定された場所に出す。
- 物置の戸締まりをする。



住宅用火災警報器は設置されていますか？

消防法の改正により、平成20年6月1日から、住宅用火災警報器の設置が義務づけられました。少なくとも台所・寝室等に設置し、定期的に動作テストをしましょう。また乾電池寿命は概ね10年です。必ず点検しましょう

くわしくは消防局予防課 TEL:043-202-1613
city.chiba.jp/shobo/yobo/yobo/index.html



熱感知式

台所など火災以外の煙が発生しやすい場所に向いています。



煙感知式

居室や階段への設置に向いています。

2 火災発生・どうする？

初期消火の段階を超えてしまうと、自分たちだけで火災を抑え込もうと考えるのは危険です。無理をすると二次災害につながりかねません。「決して無理をしない」ことが鉄則です。

① 早く知らせる

火災が起きてしまった場合、自分だけで消そうとすると、逃げ遅れたり、通報が遅れて被害が拡大したりする可能性が。まずは非常ベル（玄関壁面スイッチ）を押し、「火事だー！」と大声を出して周りに知らせ、更に 119 番通報をし、もし消せるようだったら初期消火を行いましょう。もちろん、危ないと思ったら「逃げる」ことが一番です。



② 119 番通報は正確・簡潔に

119 番に通報するときは次のようなことを正確に伝えましょう。

- ① まず火災であることを伝える。
- ② 場所（住所）はどこか。
- ③ 建物の種類は。木造かビルか（ビルの場合何階か）。
- ④ 脱出できないでいる人の有無やけが人は。
- ⑤ 火災現場付近で目印になるものは。



③ 天井に火が燃え移るまでが限度

一般的には、出火から 3 分以内に天井に火が燃え移り、初期消火のレベルを超えてしまいます。自分たちで消火するならば、出火から 1～2 分が限度です。無理をせずすぐに避難しましょう。

水のかけかた

ふすまや障子、カーテンなどの立ち上がり面にかけるときは、上から半円を描くようにする。



ストーブや畳などへは一気にかける。ただし油なべや感電の恐れがあるものには直接水をかけないで、濡らしたシーツやバスタオル等を使用する。



④ 火災の煙は有毒ガスを含み非常に危険！

煙は室内では、天井に広がってから、次第に床面に下がり、全体が煙に包まれます。煙や有毒ガスを吸い込まないために口と鼻をハンカチやタオルなどでおおい、地面に近いほど酸素が残っているので、できるかぎり姿勢を低くして、壁を伝いながら避難します。黒い煙を吸うと一酸化炭素中毒になり、命を落とすこともあります。ハンカチやタオルを水で濡らして口や鼻をおおっても防煙効果が上がるわけではありません。濡らす時間があるなら一刻も早く逃げることを優先しましょう。



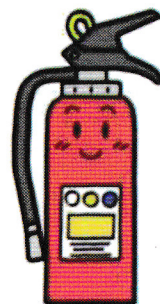
⑤ 消防隊の指示に従う

消防隊の到着後は、消防隊に必要な情報を伝え、消防隊の指示に従います。

3 消火器と操作方法

◆消火器の基礎知識

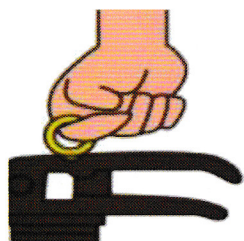
- 安全ピンのはずし方はメーカーにかかわらず共通です。
はずし方の確認をしておきましょう。
- 使い方を読むだけでなく、防災訓練などに参加し、
実際に動作してみることが肝心です。
- 消火器も有効使用期限があります。必ずチェックしましょう。



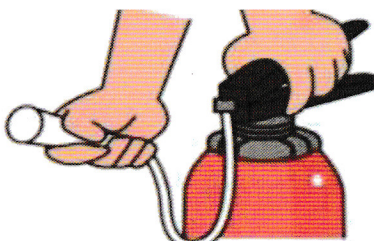
◆消火器を使った消火方法

消火器の使い方

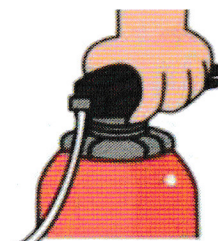
① 安全ピンを抜く



② ホースをはずして
火元に向ける



③ レバーを強く握って
噴射する



消火のコツ

- ① 自らの安全を考え、逃げ口を背にして消火にあたる。
- ② 立ち上がる炎や煙に惑わされず、火元を見極め、火元を消すように噴射する。
- ③ 消火器ではいったん火が消えても、再び燃え出すこともあるので、念のため水をかけて完全に消しておく。



◆家庭用消火器の必要性

庭で火災が発生したら身を守るための行動が最優先ですが、キッチンやコンロでぼやが発生した時に、初期の段階で消火できれば延焼を防ぐことができます。大事に至らないで済むのです。火災の初期段階で延焼を抑えることができれば、ほかの住宅に炎が燃え移ることや近隣住民の命を守ることにもつながります。この初期消火を行う上で有効なのが家庭用消火器です。初期消火は時間が勝負です。早く取りかけられるように、どの家庭でも室内に家庭用消火器を設置することをお勧めします。